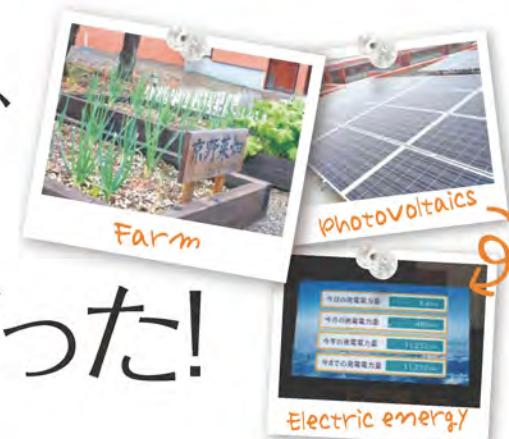


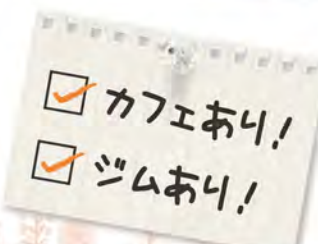


① 空いた時間はジムで身体を鍛えて。② 朝7時から入れる大浴場。③ 個別仕様のパウダールーム。④ 露天感覚のジャグジー。⑤ 修理もやってくれる自転車屋さんもあるのが便利。⑥ コンビニは、もはや学生たちの必需“店”。⑦ こぢこまりとした自分サイズの部屋が心地良い。

学生を呼び込む次世代型大学寮は、まるで都会のシティホテルのようだった!



少子化で定員に満たない大学が増えています。しかし、そのような大学は、実は、前世的な大学像に凝り固まっているからではないでしょうか。質実剛健に異論はありません。ただしかし学生たちのニーズは多様化しています。そういうニーズをカタチにしたのが、この度完成した拓殖大学のカレッジハウス扶桑。さっそくその魅力に迫ってみましょう。>>>



(写真上) 学生で賑わう夜の『グランエターナカフェ』。窓の外にはきれいなイルミネーションが。
(写真右) 共用部の電気は、寮の上に設置された太陽光パネルで発電されている。

次世代型大学寮の姿は、親世代の想像を超える人気の住まい

親世代が考える大学の寮は、決してきれいとは言えない印象で、月日が経ち老朽化していると思われるのでは。また現在でもそのような大学寮は多いと思われまふ。しかし最新の大学寮は、もはや寮と呼ぶには似つかわしくない雰囲気を出しています。

2012年4月にオープンしたばかりの拓殖大学のカレッジハウス扶桑がそう。入り口にはフランスの街角を思わせるオープンなカフェレストラン『グランエターナカフェ』があり、夜になると外に飾られたイルミネーションとカフェ室内の暖かな光のコントラストが美しく輝く。部活や授業が終わったあとの学生たちは、このカフェに集い、談笑し、お互いの親睦を深める毎日です。

充実した大学時代を支える快適な生活空間

学生が大学生時代に学ぶことは、専門課程の科目は当然のこと、ほかにサークルに部活、そしてなにより人との交流で生まれる人間関係が最大のものです。しかしそのために必要なことはそれらを支える環境です。安心して勉学に打ち込み、生活を楽しめる空間、安全で便利な住まい。遠く離れた親御さんが安心できる食事環境も大切です。

カレッジハウス扶桑は、それらすべてを提供していると言っても過言ではありません。

オープンキャンパスでも最新の大学寮は高校生の人気の的

大学が驚いたのは、オープンキャンパスに訪れた高校生たちが口々に「この寮に入りたーい」と言ったこと。学部や授業内容への魅力が一番と語ってほしいところですが、そこは正直な高校生。大学関係者は苦笑いです。

コミュニケーションの場として大学寮が果たす役割は決して小さいものではありません。最新の大学寮が大学生活の成功を約束してくれます。